

## “ZOOM”ミーティングアプリを導入しました

新型コロナウイルス感染症の拡大予防のためには、密閉、密集、密接の3密を避け、ソーシャルディスタンス（フィジカルディスタンス）を確保することが求められています。

コロナ禍の影響は多方面に出ています。当院においても、入院患者さんへの面会や外出・外泊の禁止、研修会・会議・退院前の合同カンファレンスなどが中止や縮小されるなど地域医療連携の推進に影響がでています。

このため、オンラインでの会議等が開催できるように、“Zoom”ミーティングアプリを利用できる体制を整えました。

導入したばかりで、まだまだ操作に戸惑うこともあります。今後においては、会議や退院前の合同カンファレンスなどにおいて徐々に活用してまいりたいと考えています。

コロナ禍の影響は暫く続くと思われませんが、今後もできる限りの地域医療連携の推進に務めて参りますので、よろしくお願いいたします。



## お知らせ

### 眼科の診療体制について

令和3年4月1日から、眼科の常勤医師が1名増員し2名体制となり、硝子体手術や緑内障手術にも対応していく予定をしています。詳細につきましては後日お知らせいたします。

### 地域包括ケア病棟の一時休床について

新型コロナ感染症病棟の増床に伴い、令和3年1月16日から地域包括ケア病棟を一時的に休床しています。

このため、急性期の治療を終えられた患者さまが、在宅・療養病棟・回復期リハビリ病棟・地域へとスムーズに繋がられるように入退院支援担当者を中心に支援を進めております。何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。

### 分娩・産婦人科診療（手術・入院）一時休止のお知らせ

令和3年4月以降の分娩・手術・入院治療を一時休止させていただきます。

受診中の患者さまをはじめ、関係機関の皆さまにはご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解の程よろしくお願いいたします。

### 新型コロナウイルス感染症 院内感染の終息について

令和3年1月31日に発生しました新型コロナウイルスの院内感染について、多大のご心配・ご迷惑をお掛けしましたことに心からお詫び申し上げます。

当院では、職員の感染が判明してから、長浜保健所のご指導のもと、感染拡大防止対策を徹底しながら取り組んでまいりましたところ、2月5日を最後に新たな感染者は出ておりません。このような状況を踏まえて、長浜保健所と相談のうえ、2月19日をもって、「院内感染は終息した」と判断いたしました。

今後も、さらなる感染予防対策の徹底を図り、安心して当院を受診していただけるよう、職員一同機を引き締めて取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

### 編集後記

義母に購入してもらった娘のひな人形。今年は久しぶりに娘と飾ることができました。今年度は生活スタイルが大きく変化し、変化についていくことに必死な一年でしたが、在宅勤務の恩恵で娘と一緒に義母を思い出しながら人形を出せ、華やかな情景になったことに感謝の気持ちを感じるひとときでした。元気うちに毎年飾ってあげられたらと反省もする時間ももてました。 Pink-Bu



## 市立長浜病院 地域医療連携だより

令和3年3月1日号 No.195

理念  
地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を発展させ、  
地域完結型の医療を進めます。

市立長浜病院  
患者総合支援センター 地域医療連携室  
〒526-8580 長浜市大戌亥町 313 番地  
TEL : 0749-65-2720  
FAX : 0749-65-2730  
<http://www.nagahama-hp.jp/>



救急告示病院  
日本医療機能評価機構認定病院  
地域がん診療連携拠点病院  
厚生労働省臨床研修指定病院  
周産期協力病院  
地域医療支援病院

謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。3月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

## ～循環器内科は県下トップクラスの診療実績でした～

### 循環器内科責任部長 兼 診療局長 高島 弘行

昨年从我が国もコロナ禍に覆い尽くされており、先生方におかれましても大変なご心労が続いていることと思います。

当院でも、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響が甚大でしたが、幸い循環器内科は県下でもトップクラス、過去最高の診療実績を上げることが出来ました。これも先生方によるご支援の賜物と深く感謝申し上げる次第です。

虚血性心疾患に対するカテーテル治療(PCI)は年間470例と例年通りですが、100歳近い心筋梗塞患者さんを始め、心不全や腎不全を合併しているハイリスク症例が増加してきました。バルーンやステントといった標準的デバイスだけでは手に余ることも良く経験します。当院は血栓性病変に対応するエキシマレーザーや、超高度石灰化病変に対応するダイヤモンドバック、ロータブレードといった強力な専用デバイスが以前から使用可能で、既に全国区の症例数を積み重ねております。

閉塞性動脈硬化症に対するカテーテル治療(EVT)は、この3年間で70例から160例と急増しました。腸骨動脈や浅大腿動脈の長区域慢性完全閉塞が多くなっています。最重症の壊疽も足趾の切断に至ると非常に予後が悪いため、極力救肢出来るように積極的な介入を行っています。

また、黎明期から不整脈治療に携わってこられた綿貫正人医師を迎えて、昨年より新たに不整脈に対するアブレーション手術を開始しましたが、こちらも初年度から年間120例と望外の実績でした。難治性の慢性心房細動もかなり含まれましたが、術後経過もかなり良好で、息切れなどの心不全症状がおさまったとの声も多く聞かれました。

最初は動悸を訴えるだけの発作性心房細動も、いつかは慢性化して最後には心不全へと到達します。平均寿命が90歳になるかという現在、超高齢者になったときに心不全で悩まされない様にするためにも、更に早期からの適切な管理が必要と考えています。

設備面では、この1月から3階南病棟が循環器病棟としてリニューアルオープンしました。隣接していた旧集中治療室も新たに循環器のハイケア病床として生まれ変わっています。

当院は県境に位置する地方自治体病院ですので、遠く離れた大病院へ重症患者様を紹介することは不可能です。「地域完結型の医療」という理念通り、大学病院レベルの循環器診療を湖北で実践するべく、これからも邁進致します。お困りの患者さんがいらっしゃればいつでも当科までお声がけ下さいませ。



## 3階南病棟のご紹介

### 3階南病棟 看護師長 毛利 由布子

3階南病棟は、循環器内科、心臓血管外科病棟になります。今回の改修工事では、個室が増設され、患者さんがリラックスできるようにスペースが広くとられています。

また、HCU（ハイケアユニット）4床が新設され、重症患者さんの観察室として利用できるようになりました。

カテーテル治療を受けられた患者さまや、術後の患者さんを中心に、安全な医療と看護が提供できるように各ベッドサイドには重症観察装置付き心電図モニターが装備されました。さらに、ナースステーション内からも患者さんの観察ができるように動画モニターも設置しています。



3階南病棟スタッフステーション



病棟入り口

心臓リハビリテーションにおいても、病棟で実施していただけるように心拍装置付き自転車も備えています。このことにより、リハビリ中の血圧や脈拍の変動を見ながら有酸素運動を病棟でもできるようになり、積極的な運動療法を受けていただくことができます。

3階南病棟は、西側の窓からは琵琶湖を眺めることができ、東側からは伊吹山からの朝日を浴びることができます。

景色も良く、患者さんにも大変気に入っていただけています。今後ともよろしくお願い致します。



個室



心拍装置付自転車



HCU（ハイケアユニット）

## 患者総合支援センター 令和2年度活動報告

### 患者総合支援センター副センター長 兼 地域医療連携室長 徳田 敏子

患者総合支援センター地域医療連携室は、患者相談、院内・院外の医療連携、チーム連携などの支援を行い、患者さんへの医療・保険・福祉を含めた包括的なサービスを提供しています。

外来受診から入院及び退院後を見据えて、在宅や地域へスムーズに繋がるように多職種が連携し支援しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、病診予約の制限やカンファレンス、研修会などの制限などが強いられる中、できる限りの支援に努めてまいりました。

また、令和2年6月からは地域外来・検査センター（PCR 検査センター）を開設しています。



### 地域医療連携グループ 北村 美幸

令和2年度の紹介数は12月末日で8,214件（昨年比1,754件の減少）となっています。

泌尿器科常勤医師の撤退、眼科医師の欠員、COVID-19の感染拡大予防のための受け入れ制限などが大きな原因となりました。

今年度大きく関わったことは、PCR検査センターの準備を整え、ドライブスルー方式での検査受け入れを実施させていただいている事です。できるだけ簡易に予約が取れるようにすること。院内で検査が実施できるようになった際は、なるべく診療時間内にお返事ができるように院内調整を行い、少しでもありますが、湖北の開業医の先生のお手伝いになればと努力をしてきました。

逆に、急性期病棟における病床編成が変更となり、現在地域包括ケア病床が閉鎖となっております。そのため、レスパイト入院のお受け入れもできない状況に陥っており、大変なご迷惑をお掛けする状況に陥っています。地域包括ケア病床が再開になることをスタッフも願うばかりです。

今後も当院でできることを早期に把握し、担当医師やスタッフと協議し、地域の先生方の意向にも添えるような地域連携を目指したいと考えています。

### 患者相談窓口グループ 岸田 智恵子

患者相談窓口では、午前は玄関ホールで午後は患者総合支援センターで、来院された患者さんやお電話をいただいた患者さんの相談対応を、専任の看護師が常駐し行っています。今年度の相談件数は、1月末日で2,440件となっています。その多くは、「受診に関する相談」が占めていますが、他に「看護相談」「医療に関する相談」「医療費に関する相談」など、様々な相談があります。

専門的な相談内容には、専門的な知識や技術を持つ各部門の担当者に連絡し対応しています。また、今年度は感染症に対してのご相談も多く、受診方法や感染防止対策についてのアドバイスなどをさせていただく事も多かったように思います。

なお、患者支援に携わる職員で定期的にカンファレンスを開催し、患者支援にかかる取り組みを評価することで、相談対応の質の向上と適切な援助に繋がるような相談対応が行えるように日々取り組んでいます。

### 入退院支援グループ

#### 入院支援担当 尾崎 千鶴

入院を予定している患者さんが、入院生活や入院後にどのような治療経過を経るのかイメージでき、安心して入院医療を受けられるように、入院前の留意点や入院中に行われる治療検査の説明、入院生活に関するオリエンテーションを手術室・薬剤部・医事課など他部門と連携してワンストップ形式で対応しています。

今年度の支援介入は新型コロナウイルス感染症の影響もありましたが、月平均140件、日平均9件の介入実施となっています。

入院や検査・治療に対する不安や疑問点、入院に対するご意向などを確認し、面会制限がある中での入院生活の不安軽減に努めています。

また、入院前から外来や病棟と情報共有し、患者さんの生活を分断させないよう、入院早期から退院までの切れ目のない医療支援に心がけています。

### 入退院支援グループ

#### 退院支援担当 土田 由美子

令和2年8月から入退院支援加算1の算定を開始し、よりきめ細やかな退院支援ができるように努めてまいりました。

今年度は1月末までに約800名の患者さんに介入させていただき、患者さんの身体的・社会的事情に応じて在宅や介護施設等、適切な療養場所への退院を支援させていただきました。

また、退院を支援させていただく中で、独居・老老介護・生活困窮など、様々な問題に直面する事が多くなると実感しております。

そのような困難な問題と向き合い、患者さんやご家族に寄り添いながら、住み慣れた地域での療養や生活が継続できるよう、入退院支援を進めてまいりたいと考えています。

入退院支援は病院だけで完結できるものではありません。かかりつけ医の先生方を初め、施設や各事業所の皆様とより一層の連携を深めながら、入退院支援グループ一丸となって取り組んでまいりたいと思います。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。

### 患者総合支援センター地域医療連携室

地域医療連携グループ

入退院支援グループ

患者相談窓口グループ

- ・入院支援担当
- ・退院支援担当
- ・ベットコントロール

